

第三者評価の受審実績（過去 5 年間）		平成 21、22、23、24、25 年度	
取材の対象年度	平成 24 年度	評価手法	標準の第三者評価

【取材メモ】



取材の視点

- ・第三者評価受審の目的、経緯
- ・事業評価（自己評価）のプロセスで得られた気づき
- ・利用者調査、職員の自己評価及び評価機関による評価の結果から得られた気づき
- ・改善に向けた取り組みとその成果、など

■改善の取り組みとその成果②～職員同士の対面によるコミュニケーションの活性化

当事業所の職員体制の特徴は、院長をワントップとするフラットな組織にしている点にあります。本園の各寮舎及びグループホームは、独立した生活空間の中で 24 時間 365 日、子どもたちの生活を支えています。夜間を含め何か緊急事態が発生した場合は、職員の誰もがとっさの判断と初期対応が可能な状態にしておく必要があります。そうしたリスク対応の観点から事業所が力を入れているのが、風通しのよい職員間のコミュニケーションと職員に対する研修、そして業務の標準化に向けた取り組みです。

第三者評価で指摘を受けている IT を活用した情報共有の仕組みの整備は確かに遅れている面はありますが、その分、日常的な申し送りや会議等による職員同士の対面によるコミュニケーションは活発な状態にあります。院長は、職員には自分がわからないことを周りにわからないと言う責任があると話しており、そうした意識が職員に浸透して、お互いにわかるまで聞き合い、教え合い、確かめ合う組織風土が生まれているものと推察されます。